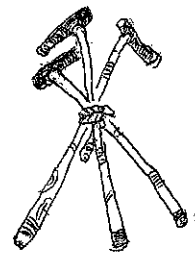


田鶴浜の左義長 について

1. 左義長は、日本では平安時代、8世紀後半桓武天皇の頃から宮中での火祭り行事です。1月15日 小正月の日、清涼殿において青竹に毬杖（ぎっちょう）を3個結びつけ、扇子や短冊、古書などをそえて焼却した行事です。年の暮にお迎えした歳神様を小正月にお送りする行事です。

三個の毬杖 → 三毬杖 → 左義長

毬杖



2. 田鶴浜の左義長の特徴

☪ 御赦免（ごしゃめん）を付けた約15メートルぐらいの孟宗竹（もうそうだけ）を町内辻々に立てること。

☪ 御赦免は各家庭から2個ずつ集められること。従って全家庭参加の左義長になります。

☪ 御赦免の三つの意味

- ① 罪を許すこと
- ② 病気が治ることを願う
- ③ 流れ星への敬いの気持ち

3. 左義長は三日間 行なわれます。

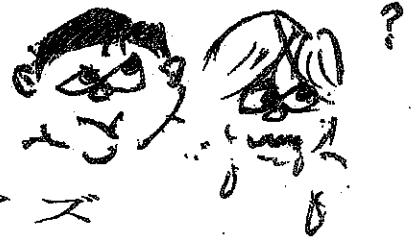
☪ 1日目 房裁ち（ふさだち） ☪ 竹を切ったりの準備

☪ 2日目 本祭り ☪ 住吉神社境内で総括祭
注連飾り（しめかざり）等と一緒に焼却

☪ 3日目 裏祭り ☪ 会計報告等を兼ねて宴会
明治・大正の頃「判じ物」等をして楽しんだ。

はん 判じ絵

(ハンジモン)
(半じ物)



江戸時代の絵解きクイズ

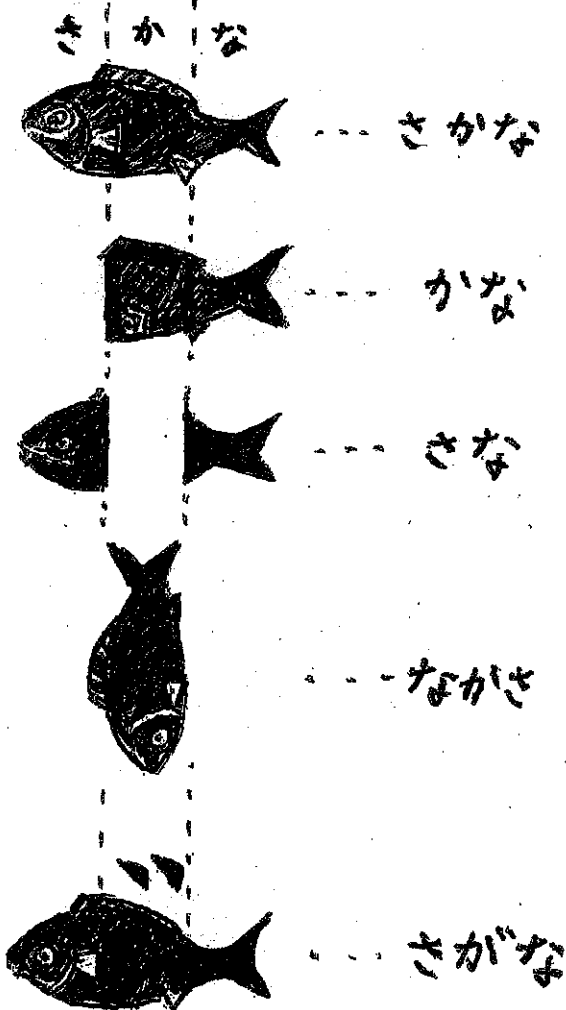
「判じる」

- ① 判断する ・ 見分ける
- ② おしはかる
- ③ 考えて意味を解く

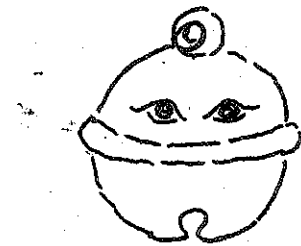


浜の若衆は、左義長の後、宴会を開き、判じ物をして楽しんだ。

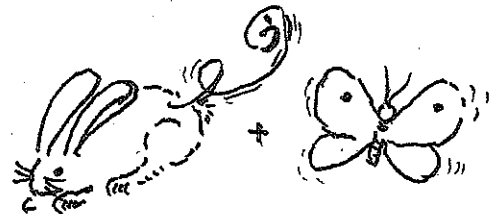
判じ絵の基本パターン



①



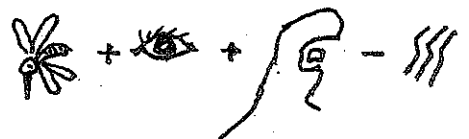
②



③



④



「判じ絵」作り



田鶴浜小学校5年（ ）

「判じ絵は」、言葉で出される“なぞなぞ”を、絵で出題したものです。絵は答えのために作られるため、存在しない、ありえないことが描かれたりするので、普通の“なぞなぞ”にないおもしろさがあります。互いに「判じ絵」を作ってみて、友達同士で出題し合うのも楽しいですね。

① 課 題 「たつるはま」

② 自由題 「 」